

2004年から政府の推進政策で種の蒔かれた日本の科学コミュニケーション教育であるが、
東京大学では後期教養教育の一環に位置づけられるなど、
単なる科学研究のアウトリーチにとどまらない広がり・意味を持つようになってきている。
識者また各大学のプログラム修了生に登壇いただき、
東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の経験なども踏まえながら、
今後を展望したい。



東京大学教養学部創立70周年記念
教養教育高度化機構シンポジウム2020

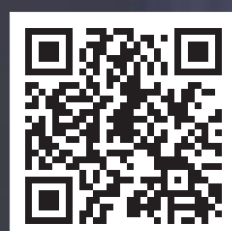
科学コミュニケーション振興の 15年、そしてこれから

2020年3月9日(月) 13:00～18:00

東京大学駒場 I キャンパス 21KOMCEE West 地下1階 レクチャーホール

参加費 無 料 定員 申し込み先着200名

申込先 <http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>



プログラム

総合司会：川越 至桜（生産技術研究所・情報学環准教授）

13:00～13:10 開会挨拶

太田 邦史（総合文化研究科長・教養学部長／総合文化研究科教授）
松尾 基之（教養教育高度化機構長／総合文化研究科教授）

13:10～14:40 第1部 基調講演

杉山 滋郎（北海道大学名誉教授／北海道大学CoSTEP初代代表）
「何を目指してきたのか
——日本の「科学コミュニケーション」をふりかえる」
坂東 昌子（NPO法人あいんしゅたいん理事長／愛知大学名誉教授）
「親子理科実験教室と福島——広がるネットワーク」
藤垣 裕子（総合文化研究科教授／
2012-14年度科学技術インタープリター養成部門長）
「科学者の社会的責任とリベラルアーツ」

休憩

15:10～16:40 第2部 パネル討論「プログラム修了生の声」

東京大学「科学技術インタープリター養成プログラム」修了生
北海道大学「科学技術コミュニケーター養成プログラム」修了生
早稲田大学「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」修了生
司会：内田 麻理香（科学技術インタープリター養成部門特任講師）

16:40～16:50 閉会挨拶

廣野 喜幸（科学技術インタープリター養成部門部門長／
総合文化研究科・情報学環教授）

17:00～18:00 ポスターセッション・懇親会

＊10:00～12:00 同会場にて、教育研究データ分析室ミニシンポ
「教育効果を測る—Evidence basedな教養教育をめざして—」も開催されます。